

木村管工株式会社

# 環境活動レポート

2015年度（2015年4月1日～2016年3月31日）

作成：2016年5月14日

木村管工株式会社

## 目次

### 内容

1	環境方針	2
2	事業の内容	3
3	環境目標とその実績	10
4	主な環境活動計画の内容	12
5	環境への取組状況	14
6	環境関連法規への違反・訴訟等の有無	17
7	代表者による全体評価と見直しの結果	17
8	次回の活動予定内容	18
9	2015年度受託した産業廃棄物の処理量	18

## 1 環境方針

木村管工株式会社は、会社の発展と地球環境保全との調和を積極的に進めるべく産業廃棄物の中間処理、資源リサイクルを独自の観点から積極的に推進し人間と自然との共生を図り、社会の持続的発展に寄与してまいります。

このように全社を挙げてこれからも地球環境保全に積極的に取り組んでまいります。

1. 環境への影響を調査及び評価し、当社の活動・製品及びサービスから発生する環境負荷を与えている主要因を効果的に低減または削減するために技術的・経済的に可能な範囲で達成すべき環境目的及び環境目標を定めます。
2. 環境改善計画を立案・実施し成果を評価して見直し、さらには次なる改善目標及び目標につなげるための環境マネジメントシステムを構築します。
3. 当社には順守しなくてはならない法律があります。これらの環境に関する法令・規制・条例・協定・その他近隣の方々との合意事項等を順守するのみならず先進の精神で積極的に環境保全を図ります。
4. 従業員に必要な教育・訓練を行い、環境保全意識が高く模範的行動がとれる人材を育成します。
5. 事業本部・各事業所で可能な範囲の美化運動を推進します。
6. 次の項目については、積極的に推進します。
  - 全社を上げて水使用量・二酸化炭素排出量・電気使用量・化石燃料使用量・最終処分廃棄物等の削減への取組
  - 当社に廃棄物を持ち込む・持ち出す事業者に対してアイドリングストップの協力
  - リサイクル化の推進を通じ社会に貢献
  - グリーン購入法の特定調達品目の購入の推進
  - 廃棄物処理における環境配慮（重機の適切な運転、お客様の車両待機時間の短縮）
  - 中和薬剤等（希硫酸）の適切な管理を行う

平成 23 年 4 月 1 日

木村管工株式会社

代表取締役

木村 徹

## 2 事業の内容

### 2.① 会社概要

会社名	木村管工株式会社
本社住所	東京都世田谷区喜多見 3-24-8
代表者	代表取締役 木村 徹
資本金	1,000 万円
設立年月日	1979 年 3 月 13 日
取扱い産業廃棄物	燃え殻、汚泥、廃油、廃プラスチック類、紙くず、木くず 繊維くず、ゴムくず、金属くず、ガラスくず及び陶磁器くず 鋳さい、がれき類、はいじん、政令 13 号物
事業内容	産業廃棄物の収集運搬及び処分、リサイクル業 建設資材製造販売

	12 年度	13 年度	14 年度	15 年度
従業員数（4 月現在）	64 名	60 名	66 名	63 名
売上（百万円）	1,236	1,283	1,305	1,307
中間処理量	36,675.5 t	34,762.1 t	37,529.3 t	33,297.3 t
収集運搬量	6,157.2 t	6,653.8 t	5,572.9 t	5,491.8 t
処理後の最終処分量	3,692.2 t	3,094.9 t	3,062.2 t	2,508.6 t

保有車両	10 t 車	5 台	4 t 車	4 台	3 t 車	3 台
	軽トラック	2 台	営業車	4 台	1.5 t 車	1 台

※上記本社住所は登記上の本社でありエコアクション 21 関連事業所には含まれません。

### 2.② 所在地及び施設概要

事業本部	
住所	神奈川県横浜市保土ヶ谷区今井町 1120-1
保管面積（積替保管）	338.73 平方メートル
保管上限（積替保管）	693.49 立法メートル
積上高さ（積替保管）	2.5 メートル
廃棄物の種類（積替保管）	廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、ゴムくず 金属くず、ガラスくず及び陶磁器くず、がれき類
保有重機	バックホー 1 台 ホイロローダー 1 台 フォークリフト 1 台
敷地面積	988 m <sup>2</sup>

上瀬谷事業所	
住所	神奈川県横浜市瀬谷区上瀬谷町 46-1
保管面積（積替保管）	449.08 平方メートル
保管上限（積替保管）	1018.15 立法メートル
廃棄物の種類（積替保管）	汚泥、廃油、廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず 金属くず、ガラスくず及び陶磁器くず、がれき類
保管上限（積替保管・特管）	1.9 立法メートル
廃棄物の種類（特管）	廃油
処理能力（中間処理） 及び廃棄物の種類	圧縮：10.4 t/日（設置年月日：平成 2004 年 2 月 3 日） 廃プラスチック類、紙くず、繊維くず 最大保管量：14.6 立法メートル
保有重機	バックホー 2 台 ホイローダー 1 台 フォークリフト 1 台
敷地面積	3,910 m <sup>2</sup>

川崎岡上事業所	
住所	神奈川県川崎市麻生区岡上 1028
保管面積（積替保管）	75.1 平方メートル
保管上限（積替保管）	99.2 立法メートル
積上高さ（積替保管）	容器 1 段積みに限る
廃棄物の種類（積替保管）	廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、ゴムくず 金属くず、ガラスくず、がれき類
処理能力（中間処理）	圧縮：9.6 t/日（設置年月日：2004 年 3 月 15 日） 廃プラスチック類
保有重機	バックホー 1 台 ホイローダー 1 台 フォークリフト 1 台
敷地面積	1,251 m <sup>2</sup>

北町中間処理プラント	
住所	神奈川県横浜市瀬谷区北町 20-20
保管面積（積替保管）	6.9 平方メートル
保管上限（積替保管）	8 立法メートル
廃棄物の種類（積替保管）	廃プラスチック類、ガラスくず及び陶磁器くず、がれき類 ※石綿含有産業廃棄物を含むものに限る
処理能力（中間処理）	破碎①：78 t/日（設置年月日：2001 年 5 月 23 日） 木くず、ガラスくず及び陶磁器くず、がれき類

	破碎②：4.98 t /日 （設置年月日：2001年5月23日） 廃プラスチック類 圧縮：8.32 t /日 （設置年月日：2004年2月3日） 廃プラスチック類、紙くず、繊維くず、金属くず 最大保管量：490.89 立法メートル
保有重機	バックホー 3台 フォークリフト 1台
敷地面積	1,215 m <sup>2</sup>

資材再生プラント	
住所	神奈川県横浜市瀬谷区目黒町9-7
処理能力（中間処理）	分級造粒固化：210 t /日 （設置年月日：2009年10月1日） 木くず、金属くず、ガラスくず及び陶磁器くず、がれき類 破碎：31.2 t /日 （設置年月日：2013年2月28日） ガラスくず及び陶磁器くず、がれき類 最大保管量：1959.08 立法メートル
保有重機	バックホー 2台 ホイルローダー 1台 フォークリフト 1台
敷地面積	3397.45 m <sup>2</sup>

2.③ 環境管理責任者：担当者氏名及び連絡先

環境管理責任者：木村 雅生

担当者：雨宮 慧

連絡先：電話 045-351-9640 FAX045-351-9531

2.④ 許可内容

都道府県・市	業区分	許可番号	許可年月日	許可期限
横浜市	処分	第05620001425号	1988年1月23日	2018年3月31日
川崎市	処分	第05720001425号	2004年4月1日	2023年3月31日
横浜市	収集運搬（積保）	第05610001425号	2006年4月1日	2018年3月31日
川崎市	収集運搬（積保）	第05710001425号	2005年11月1日	2017年10月31日
神奈川県（※1）	収集運搬	1402001425	2005年11月7日	2017年9月28日
東京都（※2）	収集運搬	第13-00-001425号	2004年4月1日	2023年2月28日
千葉県（※3）	収集運搬	第1200001425号	2006年8月17日	2016年8月31日
群馬県（※4）	収集運搬	01000001425	2013年9月10日	2018年9月9日
埼玉県（※5）	収集運搬	01100001425	2012年2月3日	2017年2月2日
横浜市（※6）	収集運搬（特管）	第05660001425号	2007年5月1日	2017年4月30日

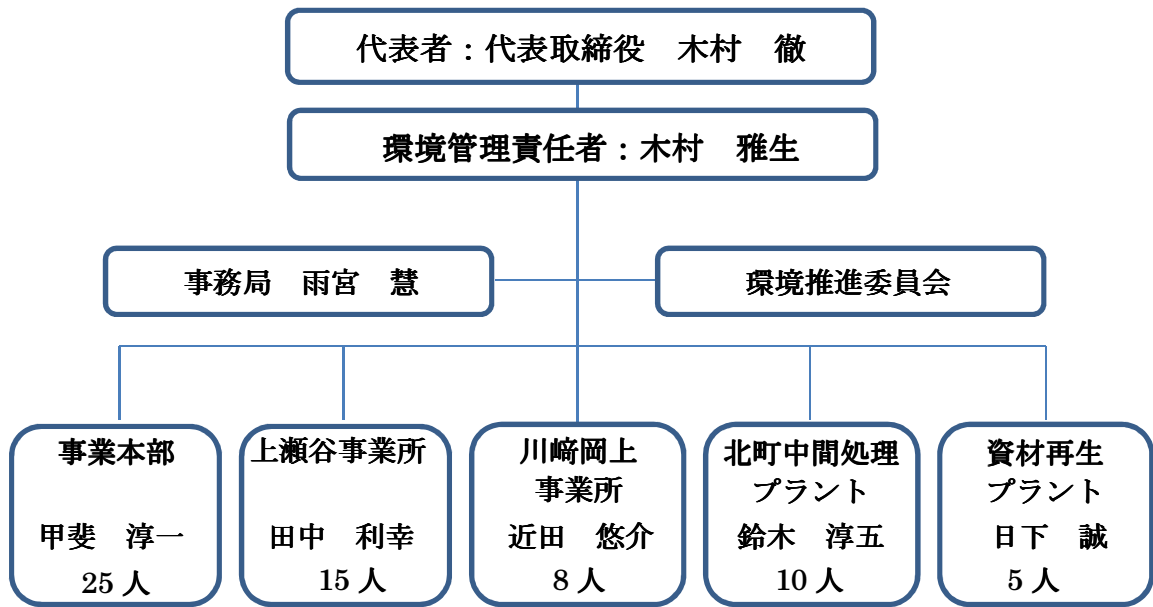
神奈川県（※7）	再生事業者	第 G00241 号	2006 年 9 月 21 日	—
----------	-------	------------	-----------------	---

〔備考：許可を受けた産業廃棄物の種類〕

- (※1) 燃え殻・汚泥・廃油・廃プラスチック類（石綿含有産業廃棄物を含む）・紙くず・木くず・繊維くず・ゴムくず・金属くず・ガラスくず・コンクリートくず・陶磁器くず（石綿含有産業廃棄物を含む）がれき類（石綿含有産業廃棄物を含む）
- (※2) 燃え殻・汚泥・廃油・廃プラスチック・紙くず・木くず・繊維くず・ゴムくず・金属くず・ガラス、コンクリート、陶磁器くず・鋳さい・がれき類・ばいじん・法令 13 号物（石綿含有産業廃棄物を含む）
- (※3) 廃プラスチック類（石綿含有産業廃棄物を含み、自動車等破砕物を除く）・紙くず・木くず・繊維くず・金属くず（自動車等破砕物を除く）・ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず（石綿含有産業廃棄物を含み、自動車等破砕物を除く）がれき類（石綿含有産業廃棄物を含む）
- (※4) 廃プラスチック類（石綿含有産業廃棄物を含む）・紙くず・木くず・繊維くず・ゴムくず・金属くず・ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず（石綿含有産業廃棄物を含む）・がれき類（石綿含有産業廃棄物を含む）
- (※5) 燃え殻・汚泥・廃油・廃プラスチック類（石綿含有産業廃棄物を含む）紙くず・木くず・繊維くず・金属くず・ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず（石綿含有産業廃棄物を含む）・がれき類（石綿含有産業廃棄物を含む）
- (※6) 廃油（揮発油類、灯油類及び軽油類に限り、特定有害産業廃棄物であるものを除く）
- (※7) ガラスくず及び陶磁器くず、がれき類の再生

2. ⑤ 組織図及び役割

**木村管工株式会社 環境組織体制図**



木村管工株式会社の環境組織における役割・責任・権限	
<b>代表者</b> <b>代表取締役</b> <b>木村 徹</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エコアクション 21 運営に関する統括責任及び環境管理責任者の任命</li> <li>・環境方針の策定・見直し</li> <li>・代表者による全体の評価と見直しの実施</li> </ul>
<b>環境管理責任者</b> <b>木村 雅生</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エコアクション 21 システムの構築、実施、管理責任</li> <li>・各事業所の環境活動の取組結果を代表者への報告</li> <li>・環境活動レポートの承認</li> </ul>
<b>事業所長</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境方針の職場への周知</li> <li>・所内の環境目標・環境活動計画の実行と活動の確認。</li> <li>・所内の環境目標・環境活動計画の是正処置の実行</li> </ul>
<b>環境事務局</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境管理責任者の補佐、全社の環境目標の立案・企画</li> <li>・エコアクション 21 システムの要求規格への対応</li> <li>・環境関連の外部への窓口及び審査対応</li> <li>・環境活動計画書の作成と運用</li> <li>・環境関連法規等取りまとめ表の作成と順守評価</li> <li>・環境活動レポートの作成、公開</li> <li>・環境への取組の自己チェック及び環境への負荷の自己チェック</li> </ul>
<b>全社員</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境方針の理解と環境への取り組みの重要性の自覚と実践</li> <li>・決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加。</li> </ul>

## 2. ⑥ 有資格者一覧（2016年4月現在）

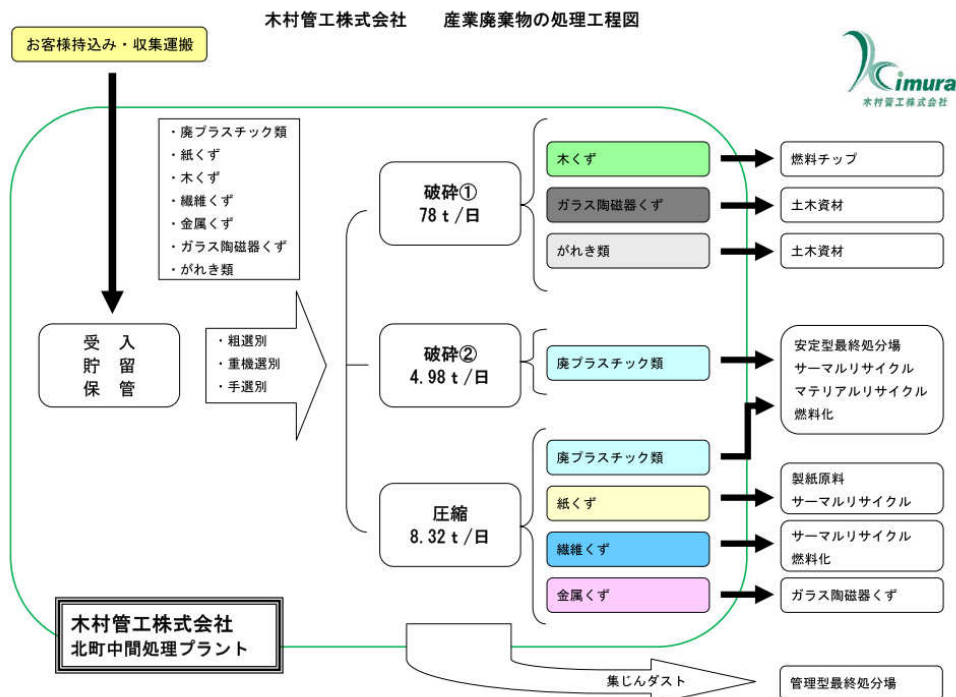
資格・講習・特別教育	人数	資格・講習・特別教育	人数
破砕・リサイクル施設技術管理士	3	特定化学物質等作業主任者技能講習	4
車両系建設機械運転技能講習（解体）	11	高所作業者運転技能講習	4
中型自動車免許	51	地山の掘削作業主任者講習	2
普通自動車免許	2	普通自動二輪免許	17
2級土木施工管理技士	2	大型自動二輪	4
大型自動車免許	15	原動機付自転車免許	22
大型特殊自動車免許	4	第二種中型自動車運転免許	1
けん引免許	3	第二種大型自動車運転免許	2
クレーン運転	1	安全衛生推進者	2
床上操作式クレーン	1	班長教育	2
小型移動式クレーン運転技能講習	7	2級土木施工管理技士	3
小型車両系建設機械	1	3級ファイナンス・プランニング 技能士	1
土止支保工作業主任者	2	石綿取り扱い作業従事者特別教育	1
酸素欠乏危険作業主任者	4	不整地運搬車両	1



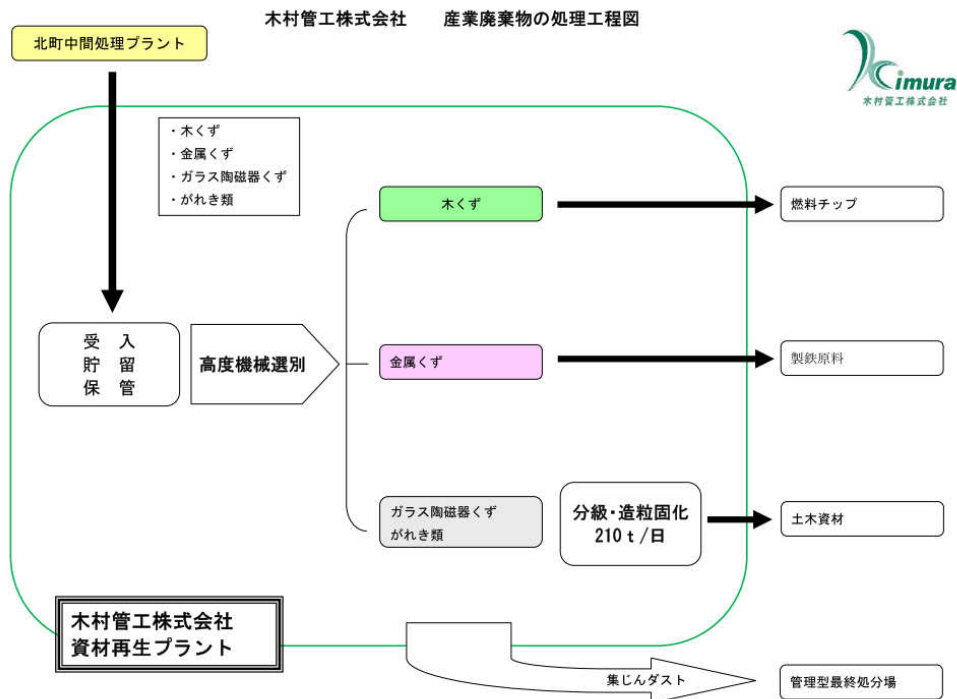
足場の組立等作業主任者	1	電卓技能検定初段	1
宅地建物取引主任者	2	簿記3級	2
3級自動車ガソリンエンジン整備士	3	低電圧取扱技工	2
3級自動車シャーシ整備士	1	玉掛作業	1
2級ガソリン自動車整備士	1	自動車単種目普通資格	1
2級ジーゼル自動車整備士	1	第二種衛生管理者	1
危険物取扱乙種第4種取扱者	2	上級救命講習	1
車両系建設機械運転技能講習	36	サービス接遇実務検定2級	1
フォークリフト運転技能講習	46	トレース技能検定2級	1
玉掛技能講習	9	自衛消防技術認定	1
ガス溶接技能講習	7	自衛消防業務講習	1
アーク溶接技能講習	6	職長安全衛生教育	1
ボイラー取付技能講習	1	小型船舶操縦免許	1
締固め機	1	電気取扱業務	1
特定粉じん作業	1	普通救命講習	1
現場派遣員基礎講習	1	自動車整備検査員	1
酸素欠乏危険作業	2	職長・安全衛生責任者	1
研削といしの取換え等の業務	1	研削といしの取扱者特別教育	1
土木工事の現場安全施工管理	1	行政書士	1

## 2. ⑦ 処理工程図

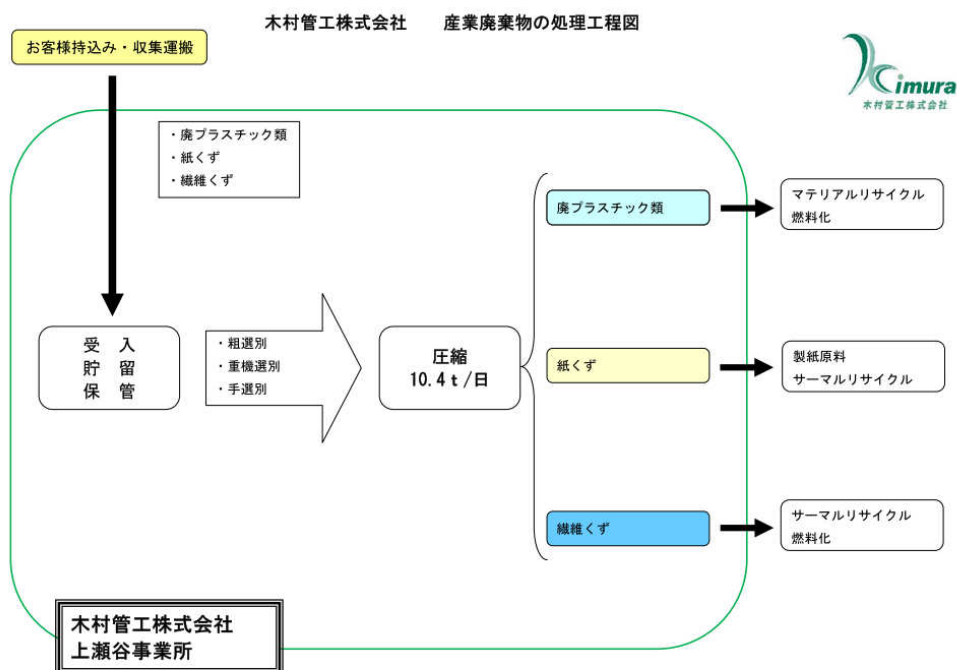
### 北町中間処理プラント



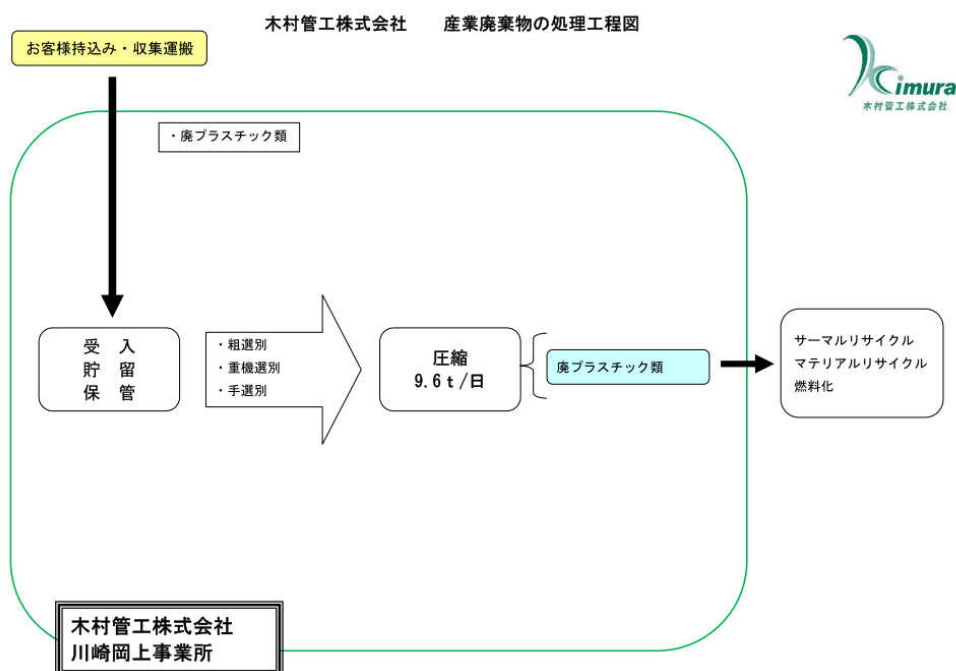
## 資材再生プラント



## 上瀬谷事業所



## 川崎岡上事業所



### 3 環境目標とその実績

#### 3. ① 環境目標

木村管工株式会社は、会社の発展と地球環境保全との調和を積極的に進めるべく、産業廃棄物の中間処理・資源リサイクルを独自の観点から積極的に推進し、最終処分量（率）を低減し人間と自然の共生を図り、社会の持続的発展に寄与して参ります。

環境負荷と環境への取組結果を踏まえ定めた環境負荷低減のための目標は次の通りである。

#### 中期環境負荷低減目標

アウトプット項目	単位	2012 年度基準	2013 年度実績	2014 年度実績	2015 年度目標	2016 年度目標
電力使用量	kwh/年	629,685.0	595,390.0	585,481.0	615,000.0	610,000.0
軽油使用量	ℓ/年	266,002.9	269,075.2	284,767.2	255,000.0	250,000.0
ガソリン使用料	ℓ/年	5,904.0	5,685.7	7,132.8	5,900.0	5,800.0
二酸化炭素排出量	kg-co2/年	956,203.4	948,519.2	989,300.2	975,000.0	970,000.0
水使用量	m <sup>3</sup> /年	2664.0	2,571.0	2,491.0	2,400.0	2,400.0
リサイクル率の向上	%	90.0	92.0	92.0	92.0	92.0
グリーン購入	%	0.0	60.0	70.0	70.0	70.0
中和剤の管理（漏洩）	件	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
環境配慮 （搬入車両の待機時間 20 分以内）	件	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

※基準：2012 年度実績

※昨年度に続き収集運搬業務に力を入れるため化石燃料（軽油・ガソリン）の使用量増加が見込まれる。  
 ※プラント設備増強により電気、軽油使用量が見込まれる。  
 ※積極的な営業活動を行い、仕事量が増えていくと思うが各使用量を抑えたい。  
 ※リサイクル率＝再資源物・中間処理後再資源化物／搬入量  
 ※目標設定時の購入電力の排出係数：0.378kg-co2/kwh。

### 3.② 環境への負荷実績

当社の業務内容は、産業廃棄物収集運搬及び処分、リサイクル業、建設資材製造販売であり環境負荷として主に考えられるのは総エネルギー投入量、総物質投入量、水資源投入量、温室効果ガス排出量、中間処理後の最終処分廃棄物量である。

環境負荷として数値化したものは下表の通りである。

#### コア指数

インプット項目	単位	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
総エネルギー投入量	MJ	16,653,532.3	16,390,947.5	16,947,059.4	15,964,517.4
搬入量（中間処理量当り）	MJ/t	454.07	471.51	451.56	479.45
総物質投入量	t	23,978.3	27,474.3	31,135.8	18,363.3
搬入量（中間処理量当り）	t/t	0.65	0.79	0.82	0.55
水資源投入量	m <sup>3</sup>	2,664.0	2,571.0	2,493.0	3,060.0
搬入量（中間処理量当り）	m <sup>3</sup> /t	0.07	0.07	0.06	0.09

アウトプット項目	単位	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
二酸化炭素排出量	kg-co2	956,192.2	948,519.2	989,570.8	1,006,127.6
搬入量（中間処理量当り）	kg-co2/t	26.07	27.28	26.36	30.22
総製品生産量	t	29,044.4	26,841.0	30,687.0	23,764.5
搬入量（中間処理量当り）	t/t	0.79	0.77	0.81	0.71
中間処理量	t	36,675.5	34,762.1	37,529.3	33,297.3
搬入量（中間処理量当り）	t/t	1.00	1.00	1.00	1.00
中間処理後再資源化量（有償）	t	17,365.7	15,655.1	16,483.4	12,442.9
搬入量（中間処理量当り）	t/t	0.47	0.47	0.43	0.37
中間処理後再資源化量（逆有償）	t	15,614.5	16,012.6	17,983.5	18,345.9
搬入量（中間処理量当り）	t/t	0.42	0.46	0.43	0.55

中間処理後最終処分量	t	3,692.2	3,094.9	3,062.2	2,508.6
搬入量（中間処理量当り）	t/t	0.10	0.08	0.08	0.07
事業活動からの廃棄物量	t	17.4	11.2	5.1	4.5
搬入量（中間処理量当り）	t/t	0.0	0.0	0.0	0.0
総排水量	m <sup>3</sup>	2,664.0	2571.0	2,493.0	3,060.0
搬入量（中間処理量当り）	m <sup>3</sup> /t	0.07	0.07	0.06	0.09

#### サブ指標（インプット）

エネルギー投入量	単位	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
購入電力量	MJ	6,189,803.6	5,852,683.7	5,775,278.2	5,417,214.7
化石燃料	MJ	10,463,728.7	10,538,263.8	11,191,781.1	10,547,302.7
総エネルギー投入量合計	MJ	16,653,532.3	16,390,947.5	16,947,059.4	15,964,517.4

物質投入量	単位	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
資材再生プラント原料	t	14,379.7	12,833.6	13,559.5	9,379.6
造粒材投入量	t	2,875.7	2,824.1	2,779.6	1,513.4
碎石購入量	t	6,722.9	11,816.6	14,796.7	7,470.3
総物質投入量合計	t	23,978.3	27,474.3	31,135.8	18,363.3

水資源投入量	単位	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
上水道	m <sup>3</sup>	2,664.0	2,571.0	2,493.0	3,060.0
地下水	m <sup>3</sup>	0.0	0.0	0.0	0.0
水資源投入量合計	m <sup>3</sup>	2,664.0	2,571.0	2,493.0	3,060.0

#### サブ指標（アウトプット）

二酸化炭素排出量	単位	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
電力	kg-co2	238,020.9	225,057.4	221,311.8	282,158.1
化石燃料	kg-co2	718,171.3	723,461.8	768,259.0	723,969.5
二酸化炭素排出量合計	kg-co2	956,192.2	948,519.2	989,570.8	1,006,127.6

製品販売量	単位	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
エコサンド	t	18,415.1	13,270.5	17,378.1	12,217.7
碎石	t	10,629.3	13,570.5	13,308.9	10,189.0
総販売量	t	29,044.4	26,841.0	30,687.0	22,406.7

排水量	単位	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
下水道	m <sup>3</sup>	2,664.0	2,571.0	2,493.0	3,060.0
公共用水域 + 蒸発	m <sup>3</sup>	0.0	0.0	0.0	0.0
総排水量	m <sup>3</sup>	2,664.0	2,571.0	2,493.0	3,060.0

※二酸化炭素排出量の排出係数は0.512kg-co2/kwh

#### 4 主な環境活動計画の内容

当社の主要な環境保全に向けた具体的な取組内容を以下に示す。

##### 4.① 総エネルギー投入量・温室効果ガス排出量削減

社用車の効率的な運転の推進

無駄なアイドリングをせず、アクセルむらのない運転の推進

排出ガス削減型の建設機械の選定

重機の効率的な使用

昼休みの照明消灯（減灯）

保有重機の使用頻度の見直しによる減車

4. ② 廃棄物（一般廃棄物）最終処分量削減

紙類の分別回収による資源化

裏紙の使用

弁当を容器再使用業者からの購入

4. ③ 廃棄物（産業廃棄物）最終処分量削減

自社プラントによって再資源化された改良砂・改良土の製造販売

金属類の分別回収による再資源化

ダンボールなどの紙くずの分別回収による再資源化

新しいリサイクル搬出先の確保

分別の徹底

4. ④ 水資源投入量削減

節水コマの設置

効率的な散水

スーパーでこまめな清掃をすることによるホコリの飛散防止

ダストバスターによるホコリの飛散防止

4. ⑤ 環境経営システムに関わる取組実施率向上

社内コミュニケーションの活性化による情報の共有

4. ⑥ 教育の実施の有無

当社の社員教育の実施状況は下表の通りである。

研修名	対象者	講師	研修内容	実施時期
管理者研修	管理者・監督者	管理責任者	業界動向 全社目標 廃棄物処理法に関する 行政概論	毎月第一 金曜日
社員研修	一般社員	管理者	環境方針の趣旨説明 部門の環境目標 部門の環境活動計画 各人の担当と役割 日常業務の担当と役割	毎週一回
重機免許 取得研修	一般社員	外部研修期間	実技 15年度は2名実施	適宜
E A 21 内部監 査員養成研修	内部監査員 指名者	環境 カウンセラー	E A 21 要求事項 内部監査の進め方 監査実技	適宜

## 5 環境への取組状況

### 5. ① 環境への取組チェック結果

『環境への取組の自己チェックリスト』に準じた結果の概要は次の通りである。

- 事業活動へのインプットに関する項目の実施は前年と同様に実施度が低い。これは来期の課題とし、省エネルギーから重点的に力を入れ取り組んでいきたい。また、事業活動へのインプットに関する項目の『3) 水の効率的利用及び日常的な節水』については各従業員が取り組みやすく、意識して行動に移せる項目なの力をいれて取り組んでいきたい。
- 事業活動からのアウトプットに関する項目については、『②オフィス等におけるリサイクルの促進』において、プリンター（複合機）のトナーカードリッジの回収ルート等は確立できている。また、シュレッダーの使用を個人情報保護及び機密情報の保持観点からの使用などにできているので今後も継続できるに努める。この項目は全体的に取り組みがしっかりとできているからといって、現状維持で満足せずに改善出来る所は改善していくよう努める。
- 製品及びサービスに関する項目については、『1) グリーン購入』に関しては改善の余地があるので、会社全体で改めて取り組んでいきたいと思う。また、『2) 受託した産業廃棄物の収集運搬・処分における環境配慮』においては、『②収集運搬システムにおける環境配慮及び効率化』についてはよく取り組んでいるが、軽油使用量の削減にも繋がってくるので現状に決して満足せずにより効果が出るように取り組んでいきたい。
- その他については、『②社会貢献』において事業所の周りなど清掃を定期的に行っているもので、この活動は継続して行えるように取り組む。今後は地域のボランティア活動にも積極的に取り組めるように活動をしていきたいと思う。

以下取組チェック結果を示す。

1. 事業活動へのインプットに関する項目	チェック結果の点数	満点の点数	施策実施度合 (%)
1) 省エネルギー	105	152	69.1
2) 省資源	42	48	87.5
3) 水の効率的利用及び日常的な節水	54	62	87.1
4) 科学物質使用量の抑制及び管理	12	12	100.0
小計	213	262	81.3

2. 事業活動からのアウトプットに関する項目	チェック結果の点数	満点の点数	施策実施度合 (%)
1) 温室効果ガスの排出抑制、大気汚染等の防止	12	44	27.2
2) 事務所等における一般廃棄物等の排出抑制、リサイクル、適正処理	62	82	75.6
3) 排水処理	12	20	60.0
4) その他生活環境に係る保全の取組等	4	8	50.0
小計	90	154	58.4

3. 製品及びサービスに関する項目	チェック結果の点数	満点の点数	施策実施度合 (%)
1) グリーン購入	36	66	54.5
2)-1 受託した産業廃棄物の収集運搬・処分における環境配慮	114	130	87.7
2)-2 産業廃棄物の処理等における環境配慮	63	72	87.5
小計	213	268	79.5

4. その他	チェック結果の点数	満点の点数	施策実施度合 (%)
1) 生物多様性の保全と持続可能な利用のための取組	3	6	50.0
2) 環境コミュニケーション及び社会貢献	37	64	57.8
3) 施主・事業主における建築物の増改築、解体等にあたっての環境配慮	13	18	72.2
小計	53	88	60.2

※表の見方

- 自社に関係する環境保全に関する個々の施策ごとに概ね実施している場合は2点、一部実施している場合は1点、未実施の場合は0点として、実施ごとに集計し環境保全に関する施策の実施度合いを示した。
- また、各取組チェック項目の効果に応じ1~3点の重み付けを行った。
- 自社に関する施策を全て概ね実施している場合は、施策実施度合い100%となる。

5. ② 環境活動の取組結果の評価

今年度の環境保全活動が終了し、社長と環境管理担当部門が環境への取組結果の評価を行った。

評価結果は次の通りである。

推進項目	単位	15年度目標	15年度結果	評価
電気使用量	kWh	615,000.0	551,090.0	○
軽油使用量	ℓ	255,000.0	268,108.1	×
ガソリン使用量	ℓ	5,900.0	7,635.5	×
二酸化炭素排出量	kg-co2	975,000.0	1,006,127.6	×
水使用量	m <sup>3</sup>	2,400.0	3,060.0	×
リサイクル率の向上	%	92.0	93.1	○
グリーン購入	%	70.0	0.0	×
中和剤の管理（漏洩）	件	0.0	0.0	○
環境配慮 （搬入車両の待機時間 20 分以内）	件	0.0	0.0	○

【是正・予防策】

○電気使用量

- ・前年度及び今年度と共に年間目標を達成できたことは従業員全体の電気使用量に対する意識が身についてきたと思う。来期も目標を達成出来るように削減に取り組むと共に削減意



識の向上と心がけの定着を強固のものとしていきたい。

○軽油使用量

- ・年末や年度末と言った繁忙期に大きく月間目標を超えてしまう傾向があるので、その分比較的落ち着いた時には収集運搬車両はいつも以上にこまめなアイドリングストップや急発進・急ブレーキなどの削減施策を意識して丁寧な運転を心掛ける。
- ・効率的な運搬経路は毎年の課題点となるので、ドライバー間と配車担当で情報交換を常にしていたが、その情報精度の向上と伝達精度の向上を計る為に定期的に情報交換会議を用いるようにした。

○ガソリン使用量

- ・ガソリン使用量は営業で使用する為、突発的に遠方に向かうことやお客様の現場が離れたりするので、目標を達成する事が難しい項目となる。その中でも、目標達成のために掲げた施策を実行して少しでもガソリン使用量の削減に努める。また、施策にもあるように無駄なアイドリングや急発進・急ブレーキなどの運転操作についてはこれからも徹底してやっていく。

○二酸化炭素排出量

- ・今年度は中期目標を設定した際の購入電力の排出係数であれば目標は達成となるが、更新された現在の排出係数では目標は未達となる。目標設定時の排出係数で見えていくと、二酸化炭素排出量が目標を達成したという事は、全体的な削減目標に対して各従業員が高い意識を持ち合わせた事が大きな要因と考えられる。しかし、電気使用量の削減が大きく貢献したが軽油使用量は目標に対して膨れてしまったので、全項目で目標を達成出来るように努めていきたい。来期以降は更新された排出係数でも目標を達成出来るように取り組む。

○水使用量

- ・湿度が低い乾燥期などにおいては粉塵対策のため散水をしなければならないが、いかに産業廃棄物が飛散しないように考えながら効果を上げるよう努める。
- ・散水をする者によって水使用量が体感的に変ってくるので、散水をするにも技術的に優れている者がしっかりと教えていくようにして、少しでも使用量の削減と効率が改善できるよう取り組んだ。

○リサイクル率の向上

- ・リサイクル率の飛躍的な向上はなかなか望むことはできないが、産業廃棄物の分別の精度を高める事がリサイクル率向上につながる為、分別作業の精度向上を徹底して、リサイクル率の向上を行った。また、今後も分別力を高めるような各種講習など実施していきたいと思う。

○グリーン購入

- ・グリーン購入については活動計画にあるように環境ラベル認定製品の優先的購入や再生材料から作られた製品の優先的購入や省エネルギー基準適合製品の優先的購入等の施策を掲げているがまだまだ実施力が弱いので、今後はより力を入れて取り組んでいきたい。

○中和剤の管理（漏洩）

- ・今年度も漏洩なく管理できた。来期以降も日々の点検を怠らずしっかりと管理していく。

○環境配慮（搬入車両の待機時間 20 分以内）

- ・各事業所ともお客様への対応が早くなり待機時間の減少につながっている。また、待機中のアイドリングストップの声掛けも出来てきたが、全従業員が声掛けできるようにさらに取り組んでいき、環境配慮の意識を高めていきたい。

## 6 環境関連法規への違反・訴訟等の有無

当社に關係する環境関連法規は、下表に示す。

内容	法規遵守結果
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	○

下水道法	○
浄化槽法	○
騒音規制法	○
振動規制法	○
消防法	○
道路運送車両法	○
自動車NOXPM法	○
労働安全衛生法	○
横浜市生活環境の保全に関する条例	○
近隣住民との協定	○

※環境関連法規制への違反はありません。

なお、関係当局からの違反等の指摘は過去3年間ありません。

## 7 代表者による全体評価と見直しの結果

### ●今季の成果について

- ・今季の成果を見てみると達成出来た項目は電気使用量・リサイクル率の向上・中和剤の管理（漏洩）及び環境配慮（搬入車両の待機時間 20 分以内）の 4 項目になる。まずは電気使用量について。この項目は前期と同じように目標を達成出来た事は素直に評価できる。また、昨年度よりも目標も高く設定した中でやり遂げたことは各従業員一人一人の高い意識があったと思う。
- ・使用量削減を行うなか昼休みの消灯・節電、冷暖房の設定温度調節・省エネなど細かな所から施設規模におよぶ効率的なプラント運営など各施策が全体に行き届くと結果が今回の結果に繋がった。
- ・前期は荷物を降ろす前のお客様が待機所にてエンジンを掛けたまま待たれていることが多かったので、今期はお客様が待機所に到着された際に作業員がお客様のもとに駆け寄り、アイドリングストップのお願いが出来たと思う。しかし、まだまだ決まったものしか声掛けが出来てないので各事業場全員が声掛けできるように努めていきたい。
- ・二酸化炭素排出量に関して。目標設定時の排出係数では目標を達成となるが、更新された排出係数で換算すると不達となる。来期は更新された排出係数でも目標を達成出来るように努める。

### ●削減目標について

- ・今季は北町中間処理プラントが井戸水使用から水道利用に切り替えも合った為、目標を達成する事が出来なかった。来期以降は切替になった後の使用量の把握を徹底して削減に取り組んでいきたい。
- ・電気の使用量は 63,910.0kwh を全体として目標を上回る事ができた。来期も引き続き取り組み従業員一人一人が削減実務者の意識を持ち、他に出来る事はないかと常にアンテナをはらしてより良い施策を実行できるように取り組んでいきたい。
- ・資材再生プラントは年間を通して非常に良い結果が出た。来期も今期同様の良い結果をだせるよう引き続き各取り組みを行う。
- ・達成出来なかった項目については、毎月ごとフィードバックを行い、なぜ目標を達成出来なかったのか改善点を見つけ来期の目標としていく。

●来季への課題

- ・まずは今回の結果を社内でしっかりと共有して、会社として現在の状況を従業員に認知してもらおう。その為にも、前回と同じだが、どんな小さな事でも報告・連絡・相談を徹底し、全従業員に展開して情報の共有化を軸に事業活動とともに環境活動も行えるような枠組みづくりを促進していく。
- ・廃棄物の分別作業の精度を向上させることで最終処分廃棄物の削減を務めると共に、資材再生プラントで製造するエコサンドの普及と品質の向上に努める。
- ・毎年の目標でもあるが、ガソリン使用量を見直し効果的な使用になっているのか、まだまだ無駄を削減できないのかをしっかりと検討しながら営業活動に力を入れていく。それとともに、産業廃棄物の量も比例して増える事になるだろうが、作業員の作業効率を磨き社会への環境負荷を減らしていく。

8 次回の活動予定内容

資源が少ない日本の中で資源の効果的な使用方法は日常生活において常に問題になっている。幸いにも弊社は廃棄物処理業であり、資源の再利用について直接的に関わる業務内容であるので、従業員が各個人としても仕事を通じて得た知識を活用し、リサイクルの担い手に成長していければと思う。また、従業員が個人として取り組んだリサイクルが家族・友達・地域の方々と輪が広がり、ゆくゆくは社会全体の各個人に繋がっていくように努めていきたい。

次回の環境レポート作成予定日は、2017年5月中旬

9 2015年度受託した産業廃棄物の処理量

処理方法等	廃棄物等種類	処分方法等	処理量 (t)
(i) 収集運搬	廃プラスチック類		773.9
	金属くず		330.6
	ガラス陶磁器くず		698.0
	がれき類		2,103.0
	紙くず		187.0
	木くず		1,365.5
	繊維くず		33.8
収集運搬量合計			5,491.8
(ii) 中間処理	廃プラスチック類	破碎	2,504.2
	廃プラスチック類	圧縮	1,330.9
	金属くず	圧縮	1,948.9
	ガラス陶磁器くず	破碎	10,717.1
	がれき類	破碎	5,367.2
	紙くず	破碎	1,740.8
	木くず	破碎	9,289.7

		繊維くず	破碎	398.5
	うち 再資源化等	廃プラスチック類	圧縮・マテリアルリサイクル（売却）	444.0
		金属くず	圧縮・製鉄原料（売却）	1,948.9
		ガラス陶磁器くず	造粒固化	6,882.0
		がれき類	造粒固化	2,497.6
		紙くず	圧縮・製鉄原料（売却）	670.3
			再資源化等量小計	
中間処理合計				33,297.3
	(iii) 最終処分	廃プラスチック類		0.0
		ガラス陶磁器くず		0.0
		がれき類		0.0
最終処分量合計				0.0
(iv) 中間処理後の産業廃棄物	最終処分	廃プラスチック類	安定型埋立（委託）	2,504.2
		ガラス陶磁器くず	管理型埋立（委託）	4.4
	再資源化等	廃プラスチック類	熱利用・セメント原料（委託）	886.9
		ガラ陶・がれき	セメント原料	99.4
		ガラス陶磁器くず	破碎・石膏化（委託）	3,764.5
		がれき類	建設資材化（委託）	2,836.4
		紙くず	焼却・熱利用（委託）	1,070.5
		木くず	熱利用・燃料化（委託）	9,289.8
		繊維くず	熱利用・セメント原料化（委託）	398.5
			再資源化等量小計	
中間処理後処分量合計				20,854.6